

三寶寺さんぼうじは祇王寺ぎおうじの南に隣る、こゝも往生院わうじやうゐんとなづく。本尊は阿弥陀仏あみだぶつ、又瀧口入道横笛たきぐちに入道よこぶえの像を安置す。開基は良鎮上りやうちん人なり。歌石うたいしといふは門のまへにあり。小松内大臣こまつないだいじんの侍士瀧口時頼たきぐちときよりといふものあり、又建礼門院けんれいもんゐんの曹司横笛そうしよこぶえは容顔美麗にして、旧は摂州神崎せつしうかんざきの遊君たりしが、瀧口に忍び逢ひ、つひに比翼の契りを結ぶ。瀧口世を觀じて出家し、此寺に隠れしかば、横笛よこぶえ是まで尋來りしに、瀧口は逢ざりけり。詮かたなく此石に一首を残し、大井川おほゐがはち千鳥どりの淵に身を沈め侍る。

梓弓誰とて何か恨むまし引かへすべき身にてあらねば

横 笛

〔是は当院の説にして、此歌石うたいしに彫刻せり。平家物語は、此説にかはりて、瀧口たきぐちは嵯峨さがを出て高野こうやへ上り、清浄心院しやうじやうしんゐんに行ひすましてぞ居たりける。横笛よこぶえもさまをかへぬるよし聞へしかば、瀧口入道たきぐちに入道一首の歌をぞ送りける。

そるまではうらみしかども梓弓まことの道にいるぞうれしき

瀧 口

返 事 に

そるとても何かうらみんあづさゆみ引とゞむべき心ならねば

横 笛

其後横笛よこぶえは奈良ならの法花寺ほつけじに有けるが、其思ひの積にやいく程なくはかなくなるよしを書り。